日本バレーボール学会第２３回大会報告

日本バレーボール学会第２３回大会が、３月１７日および、１８日の２日間にわたり名城大学ナゴヤドーム前キャンパスで開催されました。参加者数は約１３０名で初日の手話同時通訳、２日目の体験型オンコートレクチャーなど新たな試みもある中、盛況のうちに終了致しました。

【開会の挨拶】

開会の挨拶は、名城大学名誉教授・愛知県バレーボール協会元理事長である亀山紘美氏と日本バレーボール学会会長である河合学氏にご挨拶いただきました。

【特別講演】

特別講演は、愛知製鋼株式会社顧問・名城大学理事会名誉顧問である大橋正昭氏に、『バレーボールと私』というテーマについて自身の戦中戦後の体験を踏まえながらご講演いただきました。戦後の混乱期の中、バレーボールを通じて一生涯の友人を得たり、チームワークやスポーツマンシップ、リーダーシップとは何かをよく考え学ぶ機会を得たとお話されていました。また、手段が目的にならないよう、数値も大事だが一つ一つのターゲットをどう手中に収めるかをしっかり目標として立てる機会（時間）をつくるべきといったお話もしていただきました。

【基調講演】

基調講演は、日本サッカー協会技術委員会副技術委員長である山口隆文氏に、サッカー協会の育成と強化の取り組みについてご講演いただきました。Ｊリーグ発足から２５年の歴史の中で試行錯誤されてきた、選手の発掘・育成のためのシステムやそのシステムを構築するまでの経緯などをご紹介いただきました。その中でキーワードとして「指導者は選手の未来に触れている」と掲げ、発掘育成強化のための命として指導者の養成に特に力を入れている意義やその効果、指導者養成のためのシステムについて熱くご講演いただきました。

【シンポジウム】

今回のシンポジウムは『Beyond 2020 若手育成を考える』をテーマとし司会を専修大学の吉田清司氏、シンポジストには以下の５名の方々をお招きしてご講演いただきました。各シンポジストが発表した後、質疑応答に移りました。会場からはジュニアからシニアまでの一貫指導について今後どのような共通言語・技術・戦術などを全国の指導者へ波及させていくのかなど今大会のテーマでもある「東京五輪の先を見すえて」に沿う育成に関する質問があり、シンポジストそれぞれの立場から回答や個人的な見解が示されました。

矢島 久徳氏（JVA 男子強化委員長）
中垣内 祐一氏（全日本男子シニア監督）
植田 和次氏（JVA プロジェクト・コアディレクター）
藤田 高教氏（JVA プロジェクト・コアジェネラルマネージャー）
本多 洋氏（全日本男子ユース監督）

矢島 久徳氏

日本バレーボール協会の活動やシニア・アンダーカテゴリーの現状についてご紹介いただきました。また U19・U21・U23・シニアまでの一貫指導をより強化していくための方策と、東京五輪、さらにはその先のパリ、ロサンゼルスを見すえた準備の進捗状況について説明がありました。

中垣内 祐一氏

東京・パリ五輪までのチーム目標や、強化方針・強化策についてご紹介いただきました。体格の違う欧米チームに日本が勝つためには批判を恐れず常識破りの方法も取り入れていくべきだと日本独自の強化方法の構築に意欲を示されていました。

植田 和次氏

シニアチーム強化に直接的に関わる大学生の育成について、強化・育成の現状、大学生の現在抱える問題についてご紹介いただきました。また、大学から始めるようなノンエリート選手を着実に成長させるプログラムの構築に意欲を示されていました。

藤田 高教氏

シニアカテゴリーに多大な影響を与えるジュニアカテゴリーの発掘・強化・育成について高体連の年間活動を通してご紹介いただきました。厳しいスケジュールの中、合宿の日程調整など強化部の方々が日本バレーボール界の将来を見すえて奮闘されている姿をうかがい知ることが出来ました。

本多 洋氏

シニアへつなげるユース世代の育成として、全日本男子ユースチームでの取り組みについてご紹介いただきました。ユースでの活動を踏まえて指導者には育てる喜び、大型選手の身体的特徴の理解、栄養摂取（食べる力＝戦う力）の意識をもって指導して欲しいというお話がありました。

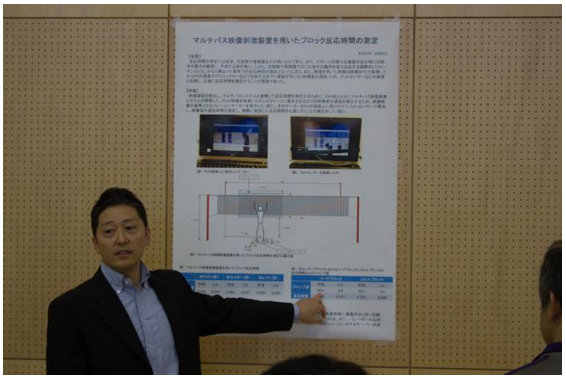
【情報交換会】

シンポジウム終了後、場所をキャンパス内北館MUガーデンテラスに移し、情報交換会が開催されました。シンポジストの方々にも全員ご参加いただき会員相互の親睦や情報交換が行われました。愛知県聴覚障害者バレーボール男子チームの皆様、情報交換会までご参加いただき誠にありがとうございました。

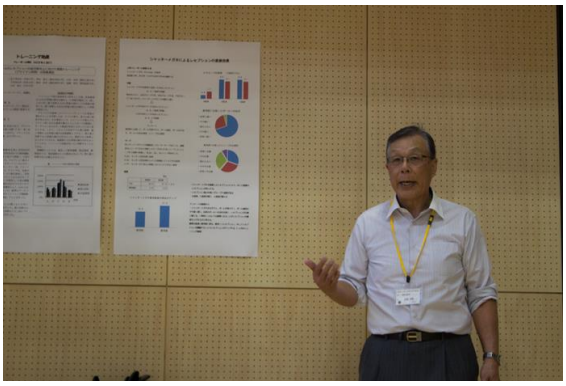
【オンコートレクチャー】

１８日午前からは体育館においてオンコートレクチャーが行われました。今回のオンコートレクチャーは『機器を用いたフィールドテストおよびトレーニング』をテーマとし、講師３名の方々には各機器を用いてどのようなことが評価・トレーニングできるのかをご説明いただきました。

山田雄太氏（大同大学）による『マルチパス映像刺激装置を用いたブロック反応時間の測定』では、トスの映像からブロック動作までの反応時間がどれぐらいかかるのかを実際に体験していただきました。説明の中ではリードブロックやコミットブロックの反応時間やジャンプ高の比較結果も紹介されていました。



石垣尚男氏（愛知工業大学）による『シャッターメガネでレセプションをアップさせる』では、１秒間に５回視界が遮断されるシャッターメガネをかけて練習していただき、メガネを外した後ボールの見え方や自身の動きにどのような好影響が起きるのか実際に体験していただきました。



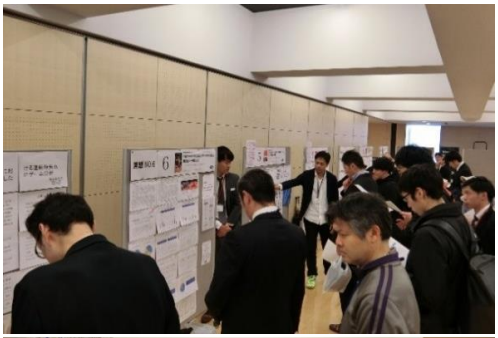
永田聡典氏（中京大学）による『VERT coach によるジャンプのモニタリング～負荷、疲労度評価の新たな視点～』ではジャンプ高やジャンプ回数を測定できる専用のウェアラブルデバイスを装着し、実際にスパイクを打った時のデータをモニタリングしました。説明の中では、永田氏が実際の練習や試合中に測定したデータをどのように運用されているかも紹介されていました。

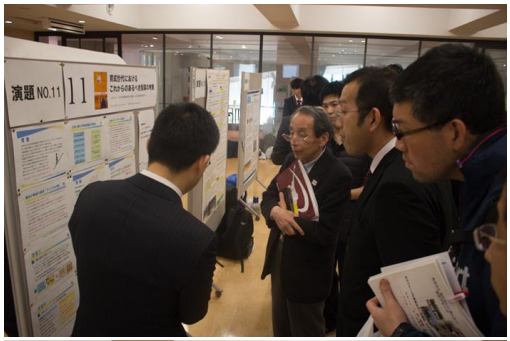
【総会】

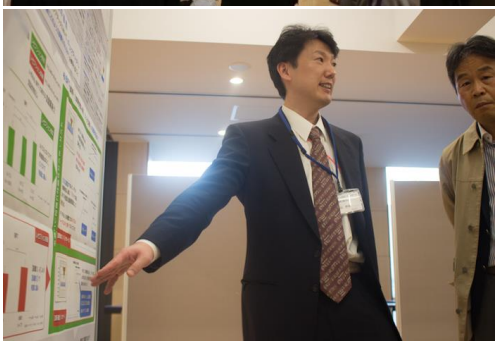
オンコートレクチャーの後には総会が行われ、予算や決算、事業報告、計画の提案と承認がされました。

【一般研究発表】

一般研究発表では２３題のポスター発表があり、活発な質疑応答や意見交換が行われていました。
※発表抄録は学会 web を参照ください。また、少し詳しい抄録が機関誌に掲載されます。

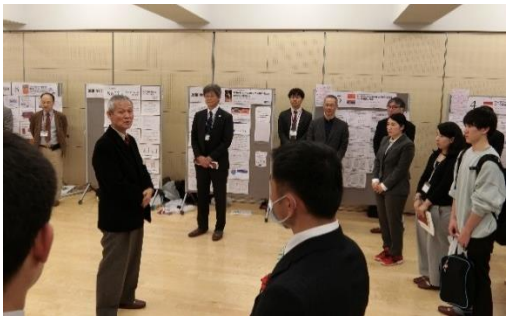






【閉会の挨拶】

日本バレーボール学会副会長の古澤久雄先生より最後に閉会の挨拶がありました。



学会に参加された皆様、２日間お疲れ様でした。

【文責】天野雅斗（トライデントスポーツ医療看護専門学校）